



SFS通信

平成25年9月25日発行(2013)

日本ボーイスカウト新潟連盟
スカウトフェローシップ委員会

編集長 杉山 剛

〒959-2658胎内市西条602-11

TEL & FAX 0254-43-4879

事務局 〒951-8052 新潟市中央区下大川前通4の町

TEL 025-229-5454 FAX 025-229-5446

第8回 SFS委員会 全体集会(参加募集)

前号でお知らせした今年度全体集会を下記のとおり開催いたします。ご参加お待ちしております。

期日 平成25年10月18日(金) ~ 19日(土)

場所 カトリック妙高教会 **赤倉山荘** (管理者:信徒代表 松口勲様 09088538828)

妙高市大字田切218-37

セルフサービスの山荘(温泉付きです)です。洗面具・寝巻は持参ください。

日程 18日 15時現地集合(駐車場十分あります)

16時~ 総会 17時~ 自由時間(温泉 散策) 18時~ 懇親会

19日 朝食後出発


9時~ 周辺観光地見学 昼食後解散

費用 8,000円(周辺観光地見学補助も含む)


参加申し込み先・新潟地区(杉山) 下越地区(杉山)
中越地区(星) 上越地区(松矢)

期限: 10月10日

研修
赤倉山荘



祈りの家とした宿泊施設です。
青少年育成熱心に御利用出来ます。
掛け流しの温泉もございます。

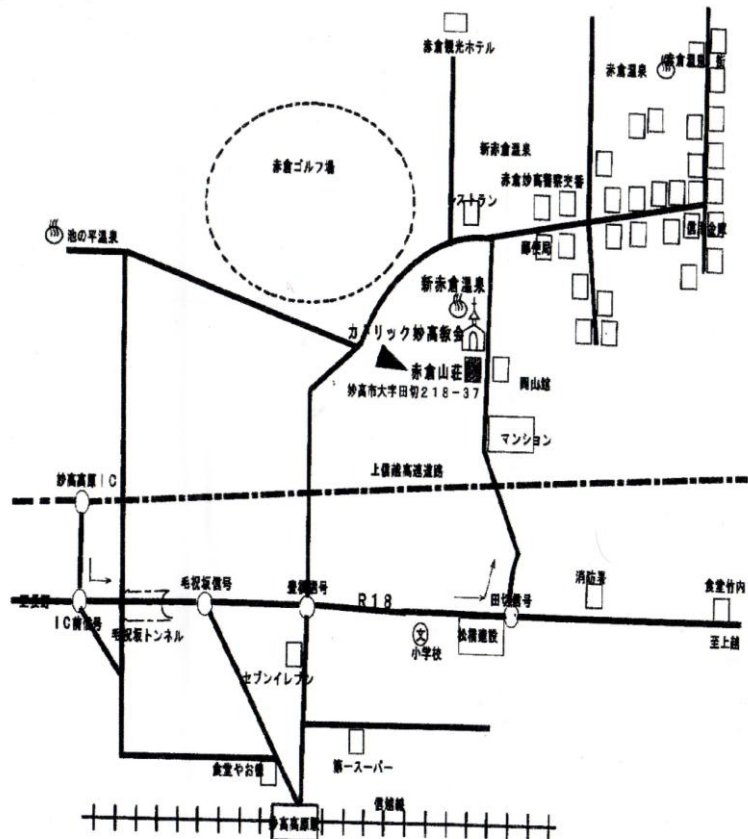


掛け流し温泉(男女あり)

宿泊、掛け流し温泉の
空室状況、利用料等
詳細は下記にお問い合わせ
合わせ下さい。

カトリック妙高教会
TEL: 0255 (87) 2780
担当/松口
携帯TEL: 090 (8853) 8828
E-Mail: bjhxm846@ybb.ne.jp

食堂、談話室



16NJが終了しました。新潟派遣団も全員無事帰新しました。“全員無事に帰ってこよう”という派遣団長の目標のもと小6スカウトも頑張ってくれました。SFS委員会からも2名が国際サービスチームという名のスタッフとして参加しました。そしてSFS委員会にも協力いただいた千羽ときのプロジェクトも好評の内に実行できました。

以下派遣団長、ときプロジェクトを主管された清水副派遣団長、SFS委員の藤塚・杉山両氏から参加報告を頂きました。なお、派遣団としての報告書は別途県連として編集中と伺っています。

16NJ／30APRSJ ジャンボリー雑感

理事長 井上 法英
派遣団長

7月31日(水)8:30新潟空港、集合。出発式の後福岡へ、バスで山口へ、15:00予定通りきらら浜キャンプイン。8泊9日の長期キャンプ生活、多彩なジャンボリープログラムと友情・交歓の数々…。アリーナショー集結時に見舞われたゲリラ豪雨もありました。これがジャンボリー、これもまたジャンボリー。

8月8日(木)7:00キャンプアウト、広島へ。鶴ならぬ三千羽トキ献呈セレモニー、平和学習の後岡山から新幹線、東京駅で解団式。22:20長岡、22:45新潟着。16NJ新潟派遣団は帰新しました。

小6参加スカウトのことなど若干の不安・心配がありました。いくつかホームシック等のこともありましたが、スカウト自身の参加意欲の確認、準備訓練等でのジャンボリー参加への自覚の促がし、指導と励まし、チームワークによってそれらを乗り越えて大いにジャンボリーを楽しんできました。杞憂に終わったことをよろこんでいます。

*

*

往路に飛行機を利用したことは正解でした。8/1の開会式では多くの熱中症患者が緊急搬送されましたが、聞けばそのほとんどが長距離バス移動のスカウトたちだったとのことです。睡眠がとれていない、疲労度が違うのです。

*

*

16NJ特別委員会で検討が重ねられ、新潟連盟として”トキプロジェクト”と”広島訪問・平和学習”の企画がなされました。”トキプロジェクト”ではジャンボリー参加訓練のなかで、また参加できないスカウトたちもいっしょにトキの折り紙制作に取り組みました。

モジュールアクティビティ、「地球環境村(GDV)」に県派遣団提供プログラムとして出した『トキの野生復帰』ブースも好評で連日大勢のスカウトたちが訪れてスタッフは大童でした。そこでもトキ折り紙にスカウトたちの協力を得て3,000余のトキが誕生しました。そのトキを広島平和公園、「原爆の子の像」にささげてきました。

この二つのことは決して別のことでなく、「環境」「平和」「いのち」…といったテーマでつながっているのです。連動しているのです。16NJのテーマは「和」WA:a spirit of Unity」です。漢字の「和」には、つまり、調和、平和、協調といった日本の文化概念を内含しています。「和」という言葉のもつ精神からも16NJテーマを具現化したものでした。グッドアイデアでした。

*

*



新潟空港での出発式



スカウトの夢が詰まった B737

広島・平和学習プログラムには広島県連盟の理事長、事務局長に直々のお世話をいただきました。また広島市当局からも国際平和推進部・被爆体験継承担当課長がお出で下さいました。お話をしているなかで、新潟派遣団の広島訪問プログラムを心底よろこび歓迎して下さいていることを強く感じました。16NJを機にもっともっと多くのスカウトが広島を訪問することを期待されていたのです。23WSJには世界中のスカウトがヒロシマに来てほしいと思料されている。8/3にはその実験プログラムとして4,000名、バス100台の大輸送計画を実施され、ご苦労されていたところです。

広島での平和学習体験でスカウトたちがいったいどんな思いを感想をもったものか、それを知りたい。

* * *

出発前夜(7/30)、NHK「ドキュメンタリー現代」で世界に広がる感動マンガ、世界20ヶ国で翻訳・出版という番組を見た。そして、今この国では、『はだしのゲン』を子どもに読ませてはならぬ！！と教育委員会の一部の声で通達を出すと、各学校の校長は唯々諾々と従ったという。いったいどういうことなんだろう。学校教育とはいったいなんだろう。危ない危ない、桑原桑原。原作者中沢啓治氏は「戦争がいかに残酷なものか、二度とあってはならないと平和を訴えるために描いた」という。一部表現が「過激」だというけど、戦争の悲惨さ、原爆の恐ろしさにショックを受けるというのはむしろ正常な感覚でしょう。いったい何を隠し、何のもくろみがあるのでしょうか。事実を「知る」こと、そして自分の頭で「考える」こと。「まなこ開きて見きわめよ」とスカウトにいいたい。

* * *

もうひとつ、これだけ書き残しておきたい。8/4(日)皇太子殿下啓に於ける”過剰警備”がありました。アリーナショーの前3時間程、アリーナ周辺エリアに立入禁止区域が設置され、デビジター(一般見学者)のビーバー、カブ、保護者、勿論一般の方々も、スカウトショップ脇に特別に設置された検問所での荷物検査、金属探知機まで使った物ものしき、異常というしかありません。そして、いつもながらの交通規制による迷惑。馬鹿馬鹿しく思えるほどのものでした。なんとかしなくては……。いったい何のためのジャンボリーなのか、ご本尊はスカウトではなかったのか、大きな課題です。

* * *

長期間奉仕をいただいた指導者は勿論のこと、協力いただいた全ての方々に感謝の誠を捧げます。本当にありがとうございました。



ときプロジェクトの好評に感謝

16NJ特別委員会副委員長

16NJ副派遣団長

清水 修(新潟16)

昨年の4月から岡本副派遣団長の監修の下、トキセンター関係者等のご指導ご協力を得て、暗中模索の中で県下スカウトの後押しを頼りにスタートした「ときプロジェクト」は、お陰様で16NJのプログラムでも主催者想定外の1日平均180人強(1日1時間のプログラムを5回)の予想以上の参加人数で推移し、参加スカウトからは新潟県が発信した内容について共感を得るなど、好評の内にその目的を達成することが出来ました。

プログラムは導入部20分のトキとの共生を例にしたテーマ説明で始まり、次に参加スカウトによる20分のディスカッションでテーマの共通認識を確認し合い、最後の20分間で自らの平和メッセージを書き込んだ「折り紙とき」を作成する工程で進行しました。特に外国スカウトの多くが動植物との共生について学校で学んでおり、「日本の朱鷺」保護活動についても知っているなど個人の見識発表も堂々として積極的であったことに驚くとともに、世界大会へ向けたプログラム内容の充実も検討したいと考えさせられました。



賑わっている県連プロのブース前

多くの参加者が注目していたのは、大きな「朱鷺の巣と卵」「朱鷺の鳴き声」、そして餌場作りや水辺の生き物研究や募金活動を通じてトキとの共生に努力しているスカウトの写真でした。またディスカッションを通じて感じたことは、募金活動も含めて国内スカウトによる環境問題に対する実活動は数少ないという現実でした。しかし、新潟県が提案した動植物との共生には強い関心を示してもらったことから、今回の目的である切っ掛け作りには貢献できたのではないかと自負しています。

プログラム運営上で注意したのは理論説明に終始せずにスカウトがゲーム形式で参加できる展開に配慮することでしたが、この難しい環境の中で新潟県の「ときプロジェクト」を成功裏に終えることができたのは若い2人のスタッフのお陰でした。彼らは英語での明確で真剣な現状説明や巧妙な話術による笑え声の絶えないディスカッションでリピーター？が付くまでに上手くリードしてくれました。



説明中の清水氏(背中)

た。この事は世界大会への大きな自信と成ると共に、新潟県のスカウト活動を託せる若い指導者候補が誕

生したことに繋がる発見でもあり、2人へは次回への期待を込めて心からの感謝を申し上げます。

募金活動については、プログラムの中で同時に依頼した「トキ募金」と「CO2削減募金」への関心と理解も高く、思った以上の高額な募金金額が集まりました。中にはお母さんが中国出身でトキを通じた文化交流で世界平和に貢献したいと言って積極的に20元の中国紙幣を寄付してくれたスカウトがいたことは心温まることでした。16NJ会場で集まった募金は、これまで新潟県内で実施してきた募金と合わせて9月中にスカウト代表により県知事へ16NJ参加報告と合わせて手渡し出来るように準備予定中であります。

また、当初は新潟県プロへの殿下お立ち寄り予定もあったかに聞いておりましたが、御日程都合により変更となり残念でした。しかし、山口県知事・同市長のご視察を得てお誉めのお言葉を頂きましたことも併せて報告いたします。

さて、県下スカウトの協力により作成した「千羽とき」は最終訓練日までに完成した2千羽を16NJのプログラム会場正面に展示すると共に後の千羽作成を呼び掛けたところ、外国スカウトも含め964羽の「千羽とき」ができあがり、新潟から持参した150羽の「千羽とき」と合わせて合計3千羽目の完成をみる事が出来ました。

今回の「ときプロジェクト」の最大の行事である帰路の広島記念公園での平和学習の一環として、広島県連盟や広島市のご協力を得て「原爆の子の像」の前で代表スカウトによる「平和への誓い宣言」や「千羽ときの献呈」等の簡素な中にも思い出に残る式典を行わせて戴きました。参加したスカウトにとって心に残る平和学習であって欲しいと願っております。これら一連の活動はTeNY-TVや新潟日報を通じて報道された他、参加隊の両隊長がこまめにフェイスブックで報告してくれていましたので保護者の方々にも概要が伝わったのではと思っております。

「ときプロジェクト」は16NJプロとしての立ち上げではありましたが、久しぶりに県下のビーバーから指導者役員まで一つの目標の下で全員楽しく活動する中で新潟県を押し出すことができたプロであったことに感謝して喜びたいと思います。最後となりましたが今回のプログラムの企画段階から我々を陰で支えて頂きました佐渡第2団の上杉先達に心から感謝して報告とさせていただきます。



献呈前の三千羽のとき



広島県連役員から説明を受ける



原爆の子の像前でのセレモニー



献呈された千羽とき

16NJにIST(国際サービスチーム)として参加 (配給・食堂部での活動)

SFS副委員長 藤塚大造(新潟7団)

新潟連盟スカウトフェローシップ委員会(SFS委員会)では、現在55名ほどの加入をいただいている。役員会の都度、BS運動への有効な支援活動について議論を重ねてきた。しかし、各自が地区、原隊での役職を兼ねていることや、平均年齢も70歳を超えている中で有効な手段を打てない状況にある。現在は各ラリーでのPR活動、情報紙の発行、親睦を兼ねた総会などの活動を行っている。

16NJが開催されるにあたり、私自身参加するとしたら何ができるだろうかとこの一年間考えていたところ、杉山編集長が15NJで配給・食堂部で奉仕をされたと聞いた。かなり厳しい業務とは聞いていたものの、なんとかなるだろうという気持ちで参加することにした。実際にはどの活動でも楽なことは一つもないことがわかったが、以下その概要を記してみたい。

<配給・給食部>

1. 目的 サブキャンプ(SC)に配属される参加隊への食材提供、本部員～ISTなどの大会運営スタッフへのレストラン運営、給食提供によりジャンボリーの円滑な運営と調整を行う。
2. 業務 献立に基づくSCへの食材および炊事用燃料の配給、本部食堂の管理運営、衛生管理など。
3. 期間 7月29日12時～8月9日12時
4. 組織 部長の下に、庶務班 配給班、キッチン班、ホール班があり、杉山さんと私はホール班に配属となった。



初日の活動を終えホッと一息
机の上は支給された非常食

<ホール班の業務内容など>

新潟派遣団は広島での千羽トキを納める日程もあり、8月7日までの奉仕となった。以下ホール班の業務及び全体の流れなどを記す。

1. ホール班の人員及び勤務時間など

登録人員は30名ほどであるが、前後半の交替もあり、またAB班に別れたこともあり、一日の出面は12名程度である。8月1日からVS-ISTが加わりかなり充実したものとなった。朝は4時20分集合(朝食提供は5時から8時30分まで)昼食は携行食を配給、夕方は16時20分集合(夕食提供は17時から20時30分まで)臨時に昼食の納入検品のため3時40分ごろ出勤あり。従って9時30分頃から15時30分頃まで自由な時間と云えようか。

2. 利用者の流れ

本部食堂(入り口の看板は JAMBOREE・HQ・RESTAURANT HQはHead Quarter)入口では、まず ICチップ入りのIDカードをスキャナーにかざすことによりカウントされる仕組みになっている。そこでトレイを受け取り、仕切りの入った皿、椀などの食器を受け取り、盛り付けを受ける。この食器はパルプモールド容器と云い、バガス(サトウキビの搾りかす)を再生利用したもので使い捨てである。ドリンクコーナーでは水、紅茶、麦茶、ポカリスウェットが用意されている。利用者は食事後、下膳コーナーで残飯用、燃えるゴミ用別にポリバケツに入れ食器を戻した後、トレイを布巾でぬぐい返却する。朝食後は携行食を受け取り退出する。なお利用者は、箸、スプーン、マイカップ持参が必要である。



受け入れ準備完了の食堂

3. 業務体制など

本部食堂は420席ほどのテーブルが用意されており、約20000名の食事に対応できる体制である。ホール班の業務としては入り口でのカード確認など3~4名、誘導2~3名ドリンクの管理2名、下膳対応4~5名、出口での消毒など2名で対応するほか、VS-ISTの応援で無事全うすることができた。食事の内容は日本人、一般外国人、ハラル・ベジタリアン食の3種に分かれそれぞれ受け取るコーナーが異なっており、国際色豊かであった。



携行食準備中のVS-IST

4. その他

16NJは30APRSJ(アジア太平洋地域スカウトジャンボリー)を兼ねるとともに、2年後の23WSJ(世界スカウトジャンボリー)のプレジャンボリーであることから、国際基準に則った衛生面、警護面なども配慮されている部分があった。本部食堂は西洋フード・コンパス株式会社が運営し、大規模給食設備基準(一般の食堂よりかなり厳しいとのこと)に従っている。同会社は英国に本部がある業界最大手のグループの一員であり、次の23WSJでの受注を期待しているようであった。

なにはともあれ、初対面のメンバーでのチーム作業なので、人間関係がうまくいくことにより初めてスムーズに運営されることになる。参加メンバーの多くは団委員長や隊長クラスの方が多く、楽しく働くことができたことは幸いであった。

<ジャンボリー生活について>

これまではISTとしての業務を中心に説明したが、以下生活体験についていささか述べたい。

1. 豪雨

ジャンボリーでは台風など嵐はつきものであるが、8月4日13時30分頃から突然雷を伴う豪雨に見舞われた。わずか20分ほどのアツという間に足首が隠れるほどであった。あわてて長靴に履き替え荷物をベットに運び上げるなど大騒ぎとなったが、まもなく小雨になりなんとかテントサイトは維持できた。この豪雨により新潟1隊、2隊のSC(サブキャンプ)状況が案じられたが、隊長以下の好リードもあり、近隣の韓国サイトを応援するなど排水作業(と国際交流)に万全を期したと聞いている。当日は16時からアリーナショー(ジャンボリー大集会)が行われ、皇太子様、安倍総理、下村文科相、野口宇宙飛行士などがご挨拶され、その後中部ブロックの信濃の国のダンスをはじめ、各ブロック、県連のショーが繰り広げられたが、豪雨被害の処理で参加できない隊もあったと聞いている。

2. 暑さと足の豆

とにかく暑さとの戦いでもあった。連日35度以上、開会式当日は39度を記録している。SCや新潟プロジェクトのブース訪問などで歩行距離は大変長く私自身の歩数は、8/1 11,000歩、8/2 18,000歩、8/4 11,500歩であった。結果、足の豆がつぶれ中央診療所で治療を受けるあり様であった。15NJでは薪割りの際の鈍傷が多かったが、それがガスコンロ使用のためゼロで、代わりに熱中症関係と足の豆治療などが大変多いとのことであった。

3. 派遣団本部の多忙さと若い力

新潟派遣団では情報関係のJDTの皆さん(荒井、小柳、大関諸氏)は朝出かけると帰るのは夜中で大変に忙しそうであった。派遣団プロジェクト担当の小菅、田中の両君そしてVS-ISTの辰口君の活躍は設営から撤営にいたるまで目覚ましく、大いに感謝している。

今回はときプロジェクトを抱えていたこともあるが、大会本部要員として多くの業務があり、派遣団要員も含めて次回以降さらに多くの参加を期待したい。

新潟派遣団本部はテント泊10泊、道中トラックを帯同しての車中2泊、皆さんご苦労様でした。

16NJに参加して

SFS通信編集長 杉山剛(中条1)

先の15NJに引き続き、配給・給食部(ホール班)での奉仕に参加しました。と云うより、参加して無事に帰ってくる事が出来ました。というのは前回は相当にきつく今回も同様であればかなり厳しいものになると予想していたからです。以下雑感の形で報告をいたします。

<前回との比較>

予想外に楽でした。理由ははっきりしています。

- ①藤塚さんと同じ業務に就いたことです。前回は馬場幸雄さん(中蒲原7)と一緒にでしたが生憎別々の業務のため生活時間が合わず、ご一緒できる時間が少なかったこと。今回は仲間と云っては先輩に失礼ですが一緒の時間が長く寂しくなかったことが大きかった。
- ②次に県派遣団本部と同じサイトで寝泊まりさせていただいたことです。前回は小さなテントの中で他県の人に囲まれた生活でした。
- ③VS-IST(ベンチャースカウトが我々と同じ仕事をするために参加していました。)が多数加わったため、隔日勤務になったことです。前回は食堂の中のみで過ごしたジャンボリーでしたが、今回は全会場を見学し、開会式の一部やアーナショーにも参加できました。はじめてジャンボリーの全貌を知ることができました。清水副派遣団長のお話ですと、前回の反省からこのように変えたのだとか、有り難いことだと思いました。

<生活について>

藤塚さんの報告の通り、10時~3時半が自由時間。それに2・4・6日が非番の日でしたから、シャワーと洗濯の時間はたっぷりありました。更に上番の日でも仕事仲間に誘われて近くの温泉(アジススパホテル)でラジウム温泉に入り洗濯機の利用もできるということで何回かタクシー通いもしました。おかげで一日に数回シャツを着替えることができ、帰宅した時に家人から汗臭くないねと不思議がられたほどです。

<仕事について>

基本的には人と接する仕事ですので、それなりに楽しくもありました。利用者は皆スカウトのために奉仕されておられる方ばかり。感謝の気持ちが湧かないわけはありません。自分の食堂でお迎えする気持ちで楽しくやらせていただきましたが、最も厳しいのは下膳担当。トレーの消毒作業がピークになると息つく暇もありません。前回はこの作業で手首の腱鞘炎になったほどです。今回は作業分担し腱鞘炎にはなりませんでしたが、それなりにきつかったです。もっとも、最後の3回はやけくそで下膳担当を志願した程度です。

我々を管理する立場の方で一人勘違いをされている人が居られました。さすが皆さん大人です。ぶつぶつ言いながら荒立てることもなく作業改善を進めていました。詳細なマニュアルがあるわけでもなく、我々の改善提案はすんなり通ります。色々改善することが楽しく、下膳担当でも最後の日に大改善をしたことも記憶に残ります。利用者からすれば毎日少しずつ変わるねと云うところでしょうか。

<涙を流したこと>

歳をとると涙もろくなるのは常のこと。何回か涙ぐんだ事があります。

- ①8月1日開会式に航空自衛隊の編隊飛行がありました。T7プロペラ練習機6機編隊で簡単な編隊飛行のあと3機編隊の小隊長クラスの2機がパイロットの紹介(会場正面の大画面)とともに会场上空を翼を左右に振りなが

ら直進しました。T7練習機はあのゼロ戦より一回り小さいのですが、翼を左右に振りながら低空を直進する様子は、特攻機の別れの挨拶と同じです。ジャンボリーと云う平和の祭典ともいう場でスクリーンに映るパイロットの紹介文を見ながら涙がにじんでくるのを抑えることができませんでした。

②7月31日15時ごろ、派遣隊のバスが到着しました。私達(土田事務局長 藤塚さん 辰口君 私)は出迎え役。辰口君と私は旗(畏印)をもって待ちかまえていました。バスが到着しガラス越しにスカウトの顔が見えると、旗を振る手に力がこもると同時に眼がウルウルしてきました。指導者が下りてこられましたと思うように声が出てきません。旗を振りながらバスを一周しましたがウルウルは止まりません。格好が悪いのでバスから離れて登録の手続きを待っていました。何故なのか、考えてみました。私達は28日出発し29日早朝に会場到着、それから設営に入り、休む間もなく食堂部の仕事につき、21時ごろサイトに帰ってくるという相当厳しい日程を過ごしてきたこと。バスから降りるとすぐ設営の大作業に入る参加隊の面々と勝手な仲間意識をつくり上げたのだと思います。仲間を迎えて頑張れよと云う気持ちが胸にあふれたのだと思います。

③8月4日アリーナショーで各連盟のパフォーマンスの中で福島連盟が”花は咲く”を歌いました。大震災の応援歌です。テレビで聞いてもう涙は出なくなったのに、生身のスカウト達が歌うのに触れると……。

④同じく8月4日アリーナショーで、未来へのメッセージが発表されました。BPのラストメッセージのとおり、よりよい世を次の世代に引き継ごうというものです。このような言葉を若者が力強く言うのはBS以外ではないのではないかと。私のこれからの進むべき道はやはりBS運動なのだあらためて思いました。

メッセージでは10年後20年後と書いていましたが、私が力強く動けるのは後10年、この時の流れにともなって命をつないでいくこと、BSの思いをつないでいくことのはかなさ、素晴らしさに感動しました。

<感じ入ったこと>

①VS-ISTのこと

VSの奉仕隊で基本的には再来年の23WSJでのISTとしての参加を期待されているチームです。今回は藤塚さんの報告にもあるように8月1日～7日まで私達と同じ仕事に就きました。私達は同じ仕事ですが彼等は前半と後半で所属部が変わります。例えば前半配給部で仕事をした人たちは後半会場警備などにつきます。ですから私達は二組のVS-ISTと付き合い合ったことになります。彼等の仕事ぶりは大したもの、初回は私達から指導を受けると後は自主的にチームとして動きました。下膳担当の時、ピーク時間前に各自食事をするように指導したところ、「判っています。私達は順番に食事をとります。皆さんは好きな時に行ってください。」と言われ私達ロートル組は充てにされていないのだなと苦笑したものです。派遣団本部にISTとして参加された小菅(新潟7)、田中(白根1)、辰口(長岡1)の3人も大活躍で彼らがいなければ派遣団本部は機能しない状態でした。このようなスカウトに育てるBS活動にあらためて思いを新たにしました。

②派遣団本部の忙しさ

派遣団長の業務(派遣団長会議他全体調整)以外の業務は以下のようです。(傍で見ている私にはわからない業務もあると思いますが……)

”各県のスカウト活動を紹介する県連ブース”(ドーム内)の管理と説明

”担当プロジェクト(ときプロジェクト)を実施する県連ブース”(屋外 県連サイトから歩いて30分)の管理と説明
庶務(氷受け取りや必要機材購入、各種調整と応援)

清水・岡本両副団長と土田事務局長を前記3人のISTがサポートする体制ですが、とにかく忙しくホッとされている様子はほとんど目にしていません。次回はより増員しなければと思いました。

それには派遣団本部にRS・VS-ISTを2～3人は増員必要、若い人が参加することは次につながります。若い人が参加し易い状況をつくりたいものです。

更にやはりSFS委員の出番です。出来そうな仕事は(イ)スカウト活動紹介ブースの運営 (ロ)庶務補助 (ハ)食堂担当(これ以外は知らない世界)と思います。分担で仕事は楽になります。多数の参加が望まれます。

44CSラリー・26BVSラリー

9月8日 上越市高田公園において開催されました。各団移動時は雨足も強く心配されましたが、開会式以降は雨具を脱ぐ姿も見られるようになりました。天候を考慮し昼食時間を自由裁量とし、ゲーム開始を早めましたが、最後まで雨に邪魔されることなく、全ての活動を無事終えることが出来ました。

開会式では風雲高田城をテーマに最強の武器を携えた各団スカウトが精一杯のパフォーマンス。閉会式での表彰で6団が最優秀の表彰を受けました。

実際の参加隊及び人数は

CS部門 21個隊 218名

(スカウト135名 リーダー83名)

BVS部門 13個隊 68名(スカウト42名 リーダー 26名)

(スカウト42名 リーダー 26名)

来賓は

上越市長 村山秀幸 様 代理 中野敏明 様(教育長)
衆院議員 高取修一 様 代理 和田慎太郎 様(秘書)



開会式での来賓挨拶



パフォーマンスの扮装をして開会式



渡辺副理事長から表彰を受ける 大賞受賞団

『風雲高田城』アイテムコンテスト大賞受賞団

- ・新潟5団 ビーバー隊
- ・新発田1団 カブ・ビーバー隊
- ・西蒲原7団 カブ隊
- ・長岡3団 カブ隊
- ・十日町1団カブ隊/小千谷1団カブ・ビーバー隊
- ・上越3団 カブ・ビーバー隊

SFS委員会活動

SFS委員会は第10コーナーを担当し、ジャンケンゲームとケン玉、ロープ結びを組み合わせでスカウトを楽しませました。資料配布はしませんでした。資料配布はしませんがコーナーを訪ねてこられた若い家族に説明し、巨大パチンコへ参加していただきました。



ケン玉挑戦



松矢
杉山・鈴木・杉山・星